

# カキ・ホタテ・ホヤの天然採苗の支援調査

北海道から宮城県までの被災道県では、ワカメ・コンブ等の海藻とカキ・ホタテ・ホヤ等の貝類等の養殖業が重要産業です。特に貝類等の養殖では、養殖筏の流失により親貝が減少し、海況の変化もあり、養殖業の早期復興の浮沈を握っている種（タネ）の確保が懸念されます。

そこで、水産総合研究センター東北区水産研究所では、宮城県漁業協同組合や地方独立行政法人北海道総合研究機構函館水産研究所等と協力し、カキ、ホタテ、ホヤについて、震災後の母貝等の状況、幼生の輸送にかかわる海洋環境、種苗発生状況を調べました。

宮城県では養殖カキが母貝として重要です。その数は、震災前に比べて1/3に減少していましたが、それでも1950年代の倍程度はあるため、十分な産卵は可能と推定されました（図1）。

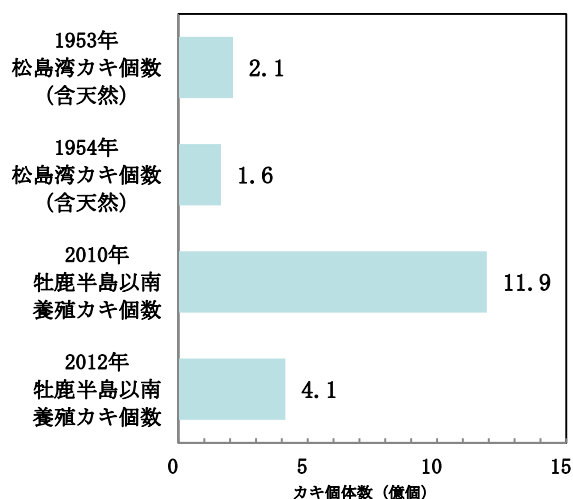


図1 宮城県牡鹿半島以南主要養殖産地のカキ個体数

6月から始まるカキ採苗に向けて石巻湾に海流ブイを設置し、カキの成熟と産卵に重要な水温や流向・流速情報をリアルタイムで漁業者に提供し続けているので、是非ホームページでご確認ください。

(<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/shubyo/index.html>)

このホームページでは、ホタテ採苗のために重要な北海道噴火湾、岩手県重茂、越喜来、ホヤ採苗に重要な宮城県歌津の最新情報も掲載しています。

ホタテの採苗には、親貝量よりも冬季の植物プランクトン量が重要なことを明らかにし、それが多かった今年4~6月のホタテ採苗は好調が期待されることを報告しました。

宮城県鮫浦湾では親ホヤ量の推定を行い、震災前の約1/10に減少していることを明らかにしました。鮫浦湾におけるホヤ浮遊幼生調査では、平年よりやや少ないものの採苗が可能な程度の発生があったことを確認しました（図2・図3）。



図2 ホヤの幼生（矢印）

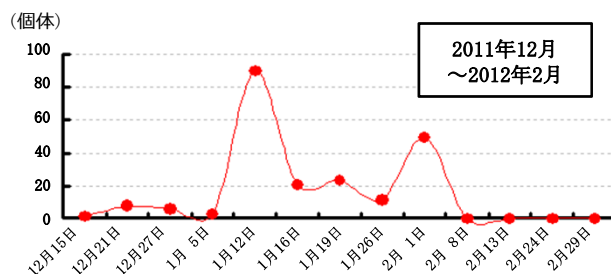


図3 鮫ノ浦湾における2011~2012年のホヤ浮遊幼生の出現経過（垂直2回曳き）

これらの養殖業の復興のために、道県の水産研究機関と連携し、今後も調査研究を続けていきます。

(増養殖研究所 資源生産部長 栗田 博)



## 東北水産研究レター No.24 (平成24年 6月発行)

(編集) 独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所 業務推進部 (発行) 独立行政法人水産総合研究センター 〒985-0001 宮城県塩釜市新浜町3-27-5 TEL. 022-365-1191 FAX. 022-367-1250

ホームページ <http://tnfri.fra.affrc.go.jp/>